

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 羽島特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年11月20日(木) 13:30～15:00
- 3 会場 羽島特別支援学校 会議室東
- 4 参加者

会長 副会長 委員	安田 和夫 野口 和彦 平井 崇広 豊島 裕香 長澤 敦 高木 固里	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 大浦区長・・・・・・・・・・欠席 万灯会まさき園施設長 羽島市主任児童委員 長谷虎紡績株式会社総務部長 PTA会長
学校側	廣瀬 雅行 横山 知加子 岡田 一朗 堤 鉄博 松本 光央 河野 美由紀 篠田 裕之 細江 紀吉	校長 事務部長 教頭 教頭 小学部主事 中学部主事 高等部主事 教務主任

5 会議の概要(協議事項) 議長(会長)による協議進行

(1) 校長より

120名程の職員と面談を行い、一人一人の声を聴く機会があった。それぞれにいろんな苦勞を抱えながら務めている。若い先生は初任者としての苦勞、中堅の先生は学年運営の苦勞、その他学校のことや家のことの心配(高齢の両親)等、世代ごとに悩みがある。一日に数回各学級を見回って職員の様子を見ているが、普段では感じない個々の悩みを抱えている。

今年も残り1か月となったが、大きな事故や怪我もなくきている。ほとんどの行事が計画通りに進めることができた。更に年末そして年度末に向けて取り組んでいきたい。

(2) 学校評価について

・プレゼンテーションソフトを使用し、各部ごとに部主事より、保護者アンケート結果からの考察説明と教頭より外部評価も含めた全体の考察を説明

質問1 アンケート調査方法は紙面で行ったか。

➡紙面ではなく、各部ごとの Forms でのアンケートを実施した。

質問2 我々の事業所でも同様に Forms でのアンケートを行ったが、回答率が悪かった。本校はどうだったか。

➡ 当校も回答率6割程度とよくなかった。期限が過ぎてからも再度案内したが、回答は増えなかった。何が原因か分からない状況である。

一昨年までの紙面アンケートの方が回収率は高かった。便利なスマートフォンからの回答であると期限を過ぎてしまうのではないか。

質問3 各家庭のインターネット環境はどうか。

➡ インターネット環境までは把握できていないが、スマートフォンからQRコードを読み取って行うので、インターネット環境がなくても回答できる。

意見1 スマートフォンでのアンケートは、案内があっても後からやればよいと思い閉じてしまう。紙であれば視界に入るところに貼っておくなどすれば、思い出して回答できる。

意見2 スマートフォンは特に回答期限が長いと安心して忘れてしまうのではないか。

➡ 更に検討して回答率を上げる。

意見3 どの部からも連絡帳と学年通信等でコミュニケーションが取れ、評価につながっている。今回の結果から、地道に先生方が取り組んでいることが分かった。

アンケートに答える際、「回答に何分くらいかかるか」「現在何問まで進んだか」が分かるように表示されると、「やってみよう」と思う。そんな工夫が必要であると考える。

意見4 全体的に満足のいく結果であるが、結果が悪いところだけでなく、少数意見も取り上げて検討すべきである。

(3) 各部の教育活動について

各部の11月現在までの主な教育活動について、部主事より画像を提示しながら説明した。

〈小学部〉 修学旅行、宿泊学習、校外学習、日常の授業風景

〈中学部〉 修学旅行、宿泊学習、校外学習、日常の授業風景、訪問教育の授業風景

〈高等部〉 修学旅行、宿泊学習、校外学習、日常の授業風景、校内作業実習、現場実習

質問1 修学旅行の紹介があったが、インバウンドの影響で候補地の変更等はあるのか。

➡ 高等部：沖縄については影響なく、経費微増はあるため来年度も沖縄を計画している。また、航空運賃が安い5月に実施している。

中学部：東京方面はインバウンドの影響が出ている。

質問2 修学旅行は大金が必要である。最近の小中学校では、旅行業者へ保護者が直接代金を支払うようだが、支払えない家庭は参加できない児童生徒が出てきているらしい。本校はどのようにしているか。

➡ 計画的に積み立てで行っている。

(4) 高等部作業製品価格（案）について

部主事より、新規作業製品 3 点について原価、価格設定について説明した。

➡ すべて承認された。

(5) ご意見・ご感想

意見 1 高校生の進路について、デイサービスや訪問看護事業等、児童生徒のために様々なサービスを利用していると思うが、羽島特別支援学校で福祉サービス事業所と連携して、学校で説明会を開くなど行くとよい。保護者には、説明会で卒業後の職場環境等を知っていただく機会にした方がよい。

意見 2 ショッピングセンターでの高等部作業製品販売会で製品を購入した時に、生徒に質問したら先生が返答した。お客様との接客という貴重な体験になるため、生徒が答えるようにするとよい。一生懸命質問に答えようとする姿はお客様に十分伝わる。

➡ 生徒が答えられる質問に対しては生徒が答えるようにしているが、これまで以上に生徒が接客を体験できる貴重な場であることを念頭に、支援していく。

意見 3 企業側の目線から、実習や雇用に向けて、障がいのある生徒をどのように受け入れるのかを検討している。工場内の工程に当てはめるのではなく、「その生徒に何ができるか」の視点で実習を受け入れたい。本校は地元の学校であり、今後も本校からの採用を考えている。

また、本校での F C 岐阜と協力して行った岐阜県内特別支援学校サッカー部対象のサッカー教室では、多くの生徒に元気よく楽しんでもらえた。今後も継続していきたい。

意見 4 P T A 研修会を年 2 回行っている。進路に関すること（年金等）や防災についてなどの内容で行っているが参加者が少ない現状である。高等部の保護者は進路に関心があり、小学部の保護者は食べることの悩みを抱えている。子供の年齢によって保護者の関心も異なるので、研修内容についてたくさんの保護者から何を勉強したいか、意見をキャッチしたいが悩むところである。また、修学旅行に付き添った保護者の話を聞いたが、かなりの負担であったと聞いた。親なしで行けるようにしたい。

➡ 教員は医療行為ができないため、保護者に医療行為をお願いした。しかし、現在は看護師も修学旅行等に付き添うようになった。やむを得ない場合には保護者の引率をお願いするかもしれない。指導医の許可や予算が必要である。今後増えてくる。

6 会議のまとめ

- ・学校評価アンケートの結果と考察の報告から、アンケートに回答する保護者側の心理的な背景やアンケート方法等について気付かせていただくことができた。
- ・高等部卒業後の進路について、地域の福祉事業所と連携し早い段階から本人、保護者に事業所を理解してもらうための相談会を催す提案について進路指導部を中心に検討していく。
- ・作業製品販売会等の地域での教育活動は、学校が考えている以上に地域の方々には特別支援学校の児童生徒へのつながりを意識してみえることを知り、今後の指導・支援に生かしていく機会を得た。
- ・高等部作業製品の製品価格について、了承を得て今後の販売会に向けて励ましていただけた。